

「顔の見える関係」から「手をつなぎ合える関係」をめざして

ことう地域チームケア研究会 たよい

平成30年3月20日発行

第31回ことう地域チームケア研究会を開催しました

- ◆開催日時:平成30年3月8日(木) 18:30~20:30
- ◆担当団体:彦根医師会・湖東健康福祉事務所
- ◆参加者:63名(医療関係者29名、福祉関係者12名、行政・包括等22名*内新規10名)



テーマ 「かかりつけ医と病院の連携」

話題提供その1 (情報提供):「湖東圏域の地域医療体制について」

- ◆「地域医療構想」は、2025 年に向け、病床の機能分化・推進を進めるために、医療機能ごとに2025年の医療需要と病床の必要量を推計し、定めるものです。
- ◆「医療機能」には、「高度急性期機能」「急性期機能」「回復期機能」「慢性期機能」などがあります。



湖東圏域の4つの病院には、様々な病床があります。その機能について、わかりやすく説明していただきました。



湖東健康福祉事務所 佐谷 裕子さん

話題提供その2 (事例報告):「地域の診療所(かかりつけ医)と病院の連携の実際」

① 開放型病床の活用事例より

彦根市立病院 医師 切手俊弘さん



◆「開放型病床」とは

かかりつけ医(開放型病床登録医)と当院の医師とが共同して、通院から入院、退院までの一貫した診療を行い、継続的に高度の医療、検査、手術などを受けていただくための専用の病床。入院中もかかりつけ医にみてもらうことができ、退院してもみてもらえる。

＝紹介医(かかりつけ医)との共同診療で

切れ目のない連携。

かかりつけ医(診療所)と病院の連携が積極的に進められてきています!

かかりつけ医として患者さんを見ていて、
「いつもと様子が少し違う」
「どこが原因と はっきりしない」
「救急ということでもない」
「でも入院が必要」 ……等、

こんな時に、地域の診療所の医師が病院の開放病床を利用されています。

◆地域包括ケアシステムの課題(医療)

- ・超高齢社会に医療はどう対応するか
- ・時々入院、ほぼ在宅
- ・在宅医療へのシフト(退院調整)
- ・かかりつけ医制度を強化
- ・「病診連携」・「病病連携」・「診診連携」

②地域包括ケア病床の活用事例より

豊郷病院 看護師 力石 泉さん



在宅での生活を支えるために

豊郷病院における地域包括ケア病棟での入院事例(一部)

(当院外来・急性期病院・診療所からの紹介)

在宅で治療継続できる病態ではあるが、独居・介護力低下等の理由で在宅療養が難しい患者

(行政・ケアマネからの相談)

虐待・ネグレクト等により、家族調整が必要な患者

(同居していない家族からの相談)

その人らしい生活を継続するために、患者・家族の自立と依存のバランスを図る必要がある患者

(家族・訪問看護師からの相談)

難病・重度心身障害者・老年精神障害者等、家族の負担軽減のためのレスパイト入院

(診療所・ケアマネジャー・訪問看護師からの依頼)

在宅療養を継続するために、生活支援サービス・家族調整が必要な患者

豊郷病院では 地域包括ケア時代における 病院と地域との具体的連携方法



グループ交流会

「それぞれの立場から、かかりつけ医師や病院、そして多職種との連携の必要についてどう思いますか。」

- ・病院が早期に患者を受け入れてくれるようになってきた。湖東地域は4病院の連携もできていてバランスが良い。開業医が安心して診療ができる。
- ・かかりつけ医が家の様子（事情）をよく知っているとうまくいくと思う。
- ・病院と開業医の医師が密に連携をとっていると、在宅復帰はスムーズになるのではないかなと思う。
- ・病気が悪化しないように患者が日々の健康管理をしていけるように伝えていかないといけない。かかりつけ医と患者・家族の信頼関係の構築が大切。
- ・昔は医師が一人で全部しないとイケなかった。今は多職種と連携できるようになったので楽になった。薬剤師との連携もありがたいと感じている。
- ・異職種がつながることが重要。多職種の集まる場で顔をつなぐことが大切。集みましょう！
- ・口腔ケアの重要性は皆で共有して取組んでいく必要がある。
- ・予防的な視点でのかわり、住民啓発の取組はどの職種も大切。

今回、たくさんの医師が参加してくださいました



これからも連携促進に向けて、ご協力をよろしくお願いします。

『「限りのある医療や介護の力、地域力」をこれからどう有効につかっていくのか』、また、『「在宅医療」ということを単に「医者が往診する」という狭い意味にとられるのではなくて、開放型病床を利用することや、またケアマネジャーや地域の専門職と連携して患者さんを支援していくということも、在宅医療へ現実的に参加していく道ではないかなと思う。』……等など、今回、ご参加の医師の方々から、これからの地域医療や日々の連携に対する熱い思いをお聞きすることができました。



ご参加ください！ 次回(第32回)は…

◆平成30年5月10日(木) 18:15~19:45

5周年記念企画

『RENKEI(連携)を語ろう！』

会場：大学サテライト・プラザ彦根
(彦根駅前・アルプラザ彦根6階)

*研究会終了後、懇親会を予定しています(申込みが必要です)
⇒別紙、案内チラシをご覧ください。

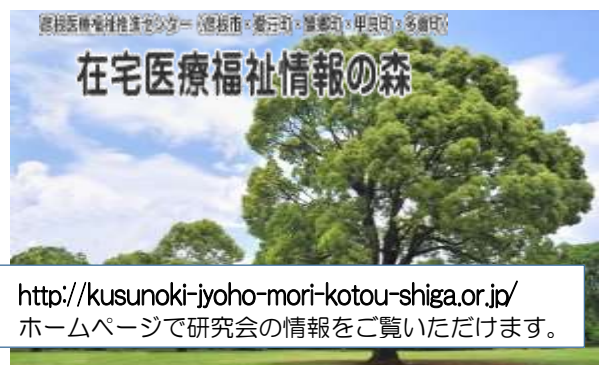
*研究会は申込み不要です。当日会場へお越しください

*問い合わせ先：ことう地域チームケア研究会事務局
彦根愛知犬上介護保険事業者協議会 (TEL 49-2455)
彦根市医療福祉推進課 (TEL 24-0828)

お知らせメールの登録をお願いします。

研究会の開催状況や、次回のご案内をメールでお知らせします。ご希望の方は、「①お名前 ②ご所属 ③ひとつこと」をいれて下記にメール送信してください。

☆ことう地域チームケア研究会事務局
(E-mail) info@gen-ai-ken-kaigo.jp



<http://kusunoki-jyoho-mori-kotou-shiga.or.jp/>
ホームページで研究会の情報をご覧いただけます。

こんなこと思いました

第31回参加者アンケートより

思ったこと、もう少し聞きたいことなど

- 多種の介護へのアプローチをより充実させるきっかけとして大変良い機会でした（医師）。
- 多職種が交流ができ、様々な生の意見が聞けて、今日の自分の立場での役割を認識できました（看護師）。
- 他の圏域の病院や開業医にも声をかけてほしいテーマだと思いました（看護師）。
- 地域、国の求める病院機能、病床機能の話から、現状の近隣病院の活動まで聞かせていただけてよかったです（看護師）。
- 困っていることはたくさんありますが、確実に良くしようと思っている方が増え、私もがんばらなければと思いました。ありがとうございました（介護支援専門員）。
- 精神科の往診の先生はいらっしゃいますか（介護支援専門員）。
- 知らないことがとても多く勉強になりました。もっと医科のことについても勉強しないとイケないと思いました（歯科衛生士）。
- 医師がたくさん来ていただけて嬉しいです。これもこの場ならこそです（なんでも相談員）。
- 普段は薬の営業を通しての病院連携しか見ていなかったのが今回はより大きな視点で地域を知れて大変勉強になりました（薬剤メーカー）。
- 本日参加の医師は熱く、前向きな思いを感じました。多くの医師の方々との連携が進むよう、医師会として連携を推進していただけるとありがたいと思います。
- 開業医から見ての地域連携。
- 各々の立場からのご意見がとても勉強になりました。共通認識が必要であると思いました。
- 病院、診療所、地域それぞれの立場で、出来ること、相手を知り、理解することで連携しやすくなると感じました。
- 医師の方とゆっくり話が出てよかったです。
- 開放病棟のことを聞いてよかったです。
- 地域の課題に目が向きがちですが圏域の資源の充実や関係作りは進んできていると思いました。

ご意見・ご感想、ありがとうございました。

●参加者の方の所属事業所（同意をいただいた事業所様のみ掲載しています）

【病院・診療所】松木診療所・中西医院・横野医院・おくの内科・成美記念クリニック・上林医院・彦根市立病院・彦根中央病院・友仁山崎病院・豊郷病院

【歯科医院】つつみ歯科医院・中川歯科医院・太陽歯科

【訪問看護ステーション】友仁訪問看護ステーションふれんず・レインボウとよさと・レインボウひこね・こころ訪問看護ステーション

【居宅介護支援事業所】あったかケアプランセンター・笑ケアプランセンター・彦根市社会福祉協議会・ぶどう居宅介護支援事業所・ケアマネジメントセンターライフ・さざなみ苑居宅支援センター・NPO ぽぽハウス・かいこうの郷居宅介護支援事業所・鈴木ヘルスケアサービス

【介護サービス事業所】愛荘ゆらぎあんどん・特別養護老人ホームさざなみ苑・トーカー

【地域包括支援センター】多賀町・愛荘町・彦根市（いなえ・ハピネス・ゆうじん）

【行政関係・医療福祉専門職団体】彦根市医療福祉推進課・湖東健康福祉事務所・米原市地域包括医療福祉センター・ふくしあ

【その他】スズケン・武田薬品・中北薬品